

温泉名人に聞く

秋も深まり温泉シーズンの到来です。世界一の温泉地「別府」でいま面白い動きがはじまっています。「温泉名人」の斉藤雅樹さんにお話を聞きました。

温泉マニアが絶賛する
「温泉の聖地」

東京の勤めをやめ、クオリティー・オブ・ライフを求めて別府に移り住んだのが30歳のとき。早々と第2の人生をこの街でスタートさせ、温泉に目覚めました。

そのころ、ちょうどインターネットが普及しはじめ、インターネット上で温泉マニアが情報交換するようになりました。なかには5000～6000湯もの経験をもつ、つわものもおり、彼らが口を揃えて「温泉の聖地」とよぶのが別府でした。オフ会と称して別府に集まり、彼らを案内したとき、湯屋までずいぶん離れた場所から「カナケ（鉄錆）の匂いが…」とか「硫黄の匂いが…」と、まるでワインのソムリエのように泉質を嗅ぎ分けるのには驚きました。

ホンモノの湯めぐりが
ここにある

別府では、各家庭に上下水道のほか温泉の配管がひかれ、公共サービスは電気・ガス・水道、そして温泉が常識。月3000円～8000円の定額（地区毎に料金が違う）で24時間かけ流しの温泉が供給されます。

温の数や湯湧量のすごさはもちろん、泉質のバリエーションが別府の魅力です。どの温泉地で湯めぐりをしても同じ泉質の湯がほとんど。ところが別府では、ひと湯ごとに泉質が異なり、さらにどの泉質においてもトップクラスのお湯が楽しめます。

調べてみると別府の地下は活断層だらけで異なる地質が重なり合っています。また、源泉ごとに湧き出す深さも違うことから、この多様性が生まれているのです。



旅館・ホテルの湯から市営の共同浴場まで、町中のいたるところで温泉が楽しめる。

ホンモノのお湯が
ここにある

ひところの温泉ブームは、料理や女将さんや部屋付の露天風呂などが注目され、泉質とは別のところで温泉人気が高まりました。しかし2年ほど前、白骨温泉で入浴剤が混入されるという騒動があって以降、泉質に拘るホンモノ指向が強まったように思います。

別府では、温泉の信頼を取り戻すべく、いち早く独自フォーマットで情報公開をはじめました。それが「温泉カルテ」（P11参照）です。カルテには源泉や浴槽の分析情報のほか、温泉Gメンによる匂いや味、肌触りといった感覚評価が記されています（別府には5人の温泉Gメンがいて、リーダーの斉藤さん以外は氏名非公開）。

私が選ぶ別府の温泉ベスト3ですが、まず鉄輪温泉の「神和苑」。ここはお湯が青くてすごい。次に明礬温泉の「泥湯」。ここもとてもいいお湯です。そして「血の池地獄」にある足湯。泉質がとてもめずらしくまさに珍湯です。ほかにまだまだすごいお湯がいっぱいあります。温泉道初段を目指して、ぜひ別府へお越しください。

※インタビューをもとに編集部で構成

⇒斉藤名人から学ぶ
「別府温泉講座」はP11

斉藤雅樹
Saito Masaki

四国徳島の生まれ。東京で就職するも別府の魅力にとりつかれて移り住む。その後、温泉に傾倒し、「別府八湯温泉道」の制作、「温泉本」の監修を行う。大分県産業科学技術センターに勤務するかわら、温泉Gメンのリーダーとして日々、湯めぐりにいそしむ。著書「大分の極上名湯」ほか。

